

U12

TO マニュアル ハンドブック



2024年4月

(公財) 日本バスケットボール協会 TO 委員会

U12 TOマニュアル ハンドブック
「TO をやってみよう！」

2024年4月

(公財) 日本バスケットボール協会 TO委員会

テーブルオフィシャルズは、バスケットボールのゲームになくてはならない役割です。審判とともに、公正で円滑なゲームを支える、とても大切な仕事をしています。また、テーブルオフィシャルズの仕事を覚えることは、ルールの勉強にもなります。この冊子をよく読んで、テーブルオフィシャルズをやってみましょう！

内 容

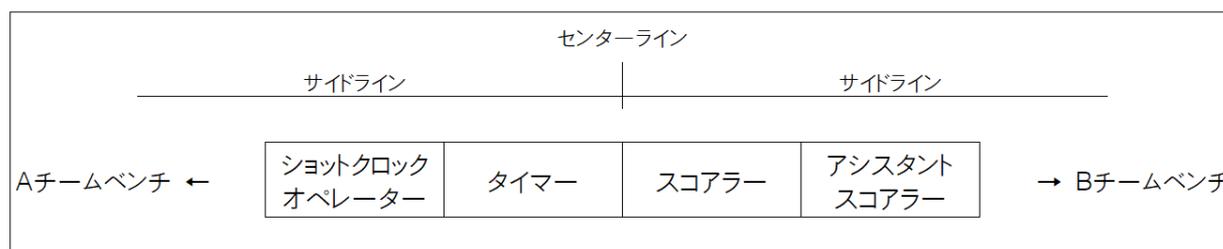
1. テーブルオフィシャルズ全体
2. スコアラーの仕事①（スコアシートの記入）
3. スコアラーの仕事②（審判への合図）
4. アシスタントスコアラーの仕事
5. タイマーの仕事
6. ショットクロックオペレーターの仕事
7. スコアラー系のコミュニケーション
8. タイマー系のコミュニケーション

1. テーブルオフィシャルズ全体

- テーブルオフィシャルズは、次の 4 人で行います。仕事を分担して、5 人で行うこともあります。

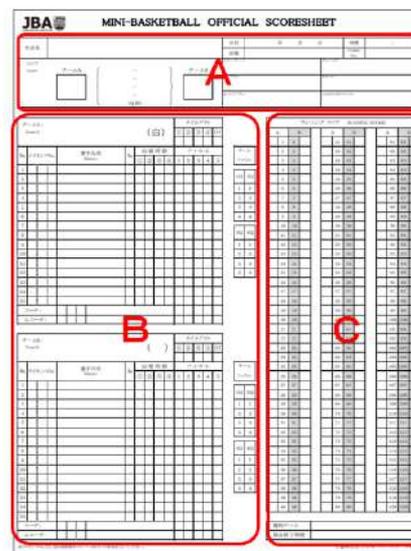
名称	主な仕事
スコアラー	スコアシートの記録、審判への合図（タイムアウト、交代）、アローの表示
アシスタントスコアラー	スコアボードの操作、ファウルの表示、スコアラーのサポート
タイマー	ゲームロックの操作（競技時間、インターバル、タイムアウトの計測）
ショットクロックオペレーター	ショットクロックの操作（24 秒ルールの適用）

- スコアラーズテーブルの座席は次のように決められています。5 人で行うとき、5 人目の座席は、仕事の分担の仕方で決めます。



2. スコアラーの仕事①（スコアシートの記入）

- スコアシートは、次の 3 つの部分に分かれています。
 - [A]ヘッダー部分
 - [B]チーム欄
 - [C]ランニングスコアと最終結果記入欄
- 直線を引くときは、定規を使います。ただし、ランニングスコアの数字を消す短い斜線（/または\）、チームファウルの数字を消す×印は、定規を使わずに引きます。



[A] ヘッダー部分

- 大会名・日付・時間・会場名・ゲームナンバー・得点・審判と TO の氏名を記入します。（審判と TO の氏名は、ゲーム終了後に記入します。）

大会名	第53回全国ミニバスケットボール大会			日付	2023年 3月 31日	時間	12:30
				会場	東京体育館	Game No.	6
スコア Score	チームA	13 - 12 14 - 8 9 - 14 12 - 12 (延長)	チームB	クルーザー	東京 一郎	ジャンプ	大阪 二郎
	48		46	スコアラー	岩国 愛菜	タイマー	柳井 伶香
				A・スコアラー	防府 麻里子	ショットクロックオペレーター	小野田 明美

〔B〕チーム欄

- ゲーム開始40分前までに選手とコーチの登録番号（下3桁）・氏名・番号等を記入します。（登録番号は省略することもあります。）使わない欄は、横線と斜線で区切ります。
- ゲーム中は、出場時限、ファウル（個人、チーム）、タイムアウトを、各クォーターの色（第1Q・第3Q=赤色、第2Q・第4Q・OT=濃色（黒/青））で記録します。

チームA:		東西クラブ		(白)		タイムアウト									
Team A:						①	②	③	④	OT					
						4	5	6							
No.	ライセンスNo.	選手氏名 Players			No.	出場時限				ファウル					
		①	②	③		④	1	2	3	4	5				
1	1	2	3	京都 蒼	4	/	/	/	/	P	P ₁	P	P		
2	2	3	4	徳島 樹	5	/	/	/	/	P	P ₂				
3	3	4	5	佐賀 蓮	6	/	/	/	/						
4	4	5	6	宮城 陽翔	7	/	/	/	/	P	U ₂				
5	5	6	7	群馬 律	8	/	/	/	/						
6	6	7	8	富山 朝陽	9	/	/	/	/	P					
7	7	8	9	三重 湊	10	/	/	/	/	P	P ₂				
8	8	9	0	愛媛 新	11	/	/	/	/						
9	9	0	1	長崎 大和	12	/	/	/	/						
10	0	1	2	秋田 大翔	13	/	/	/	/						
11	1	2	3	埼玉 暖	14	/	/	/	/	P	T ₂				
12															
13															
14															
15															
コーチ:		0	4	7	山口 馬輔					B ₁	M ₁				
A.コーチ:		0	5	9	広島 修斗										

タイムアウトの記録

- 経過時間(分単位。切り上げ)で記録する。
[例] (6分Q)残り2分35秒→「4」
(3分OT)残り0分9秒→「3」
- とらなかったクォーターの欄には2本の横線を引く。

チーム	ファウル
1Q	2Q
3Q	4Q

ゲーム出場の記録

- 各クォーターの開始前にメンバーチェックし、出場するプレイヤーの欄に斜線（/）を引く。
- 途中から出場したクォーターには、逆の斜線（\）を引く。

チームファウルの記録

- プレイヤーのファウルが記録されるたびに数字を×で消す。
- ヘッドコーチに記録されるファウルはチームファウルに含まない。
- 使わなかった枠に2本の縦線を引く。

ファウルの記録

- ファウルの種類を示す記号を記入する。
- フリースローが含まれる場合は、その数を右下に書きそえる。
- 第2Qの終わりに、使用した枠と未使用の枠の間に濃色（黒/青）で太線を引く。
- ゲーム終了後、未使用の欄には横線を引く。

プレイヤーのファウルの記号	ヘッドコーチに記録されるファウルの記号
P ... パーソナルファウル	C ... テクニカルファウル（コーチ自身の振る舞い）
U ... アンスポーツマンライクファウル	B ... テクニカルファウル（ベンチメンバーの振る舞い）
T ... テクニカルファウル	M ... マンツーマンペナルティ

〔C〕ランニングスコア

- ゲーム中に得点を記録していきます。スコアボードの得点と、常に一致していることを確認しましょう。

ゴール

- 点数の枠に対角線を描き、その横にプレイヤーの番号を記入する。
- 左利きのスコアラーは、対角線に \ を用いてもよい。

フリースロー

- 点数の上に塗りつぶした丸を描き、その横にプレイヤーの番号を記入する。

自チームのバスケットへのゴール

- 誤ってでも偶然にでも自チームのバスケットにゴールした場合は、点数の枠に対角線を描き、その横に▲を記入する。

各Q、OTの終了

- 最後の得点を太い○で囲み、点数とプレイヤーの番号の下に太い横線を引く。

ランニング スコア				RUNNING SCORE			
A		B		A		B	
	1	1		4	●1	41	
7	2	2	4		42	42	8
	3	●3	8	4	43	43	
5	4	4		4	●4	44	12
	5	5	11		45	45	
8	●6	6		7	46	●46	12
8	●7	7	4		47	47	
	8	8		12	●48	48	
▲	9	9	7		49	49	
	10	●10	7		50	50	
7	11	11			51	51	
	12	○12	11		52	52	
4	○13	13			53	53	
10	14	14	5		54	54	
	15	15			55	55	

ゲーム終了

- ゲーム終了時間を記入する。
- 最終得点を太い○で囲み、点数とプレイヤーの番号の下に2本の太い横線を引く。
- 残りの欄に斜線を引く。
- 勝者チーム名を記入する。

勝利チーム	東西クラブ
試合終了時間	13:30

※ 3ポイントを採用する場合、3点のゴールはプレイヤーの番号を○で囲んで記録する。

	23	●3	6
12	24	24	
	25	25	
	26	26	
○9	27	27	
	28	28	

3. スコアラーの仕事②（審判への合図）

- チームからのタイムアウトの請求や交代の申し出を審判に知らせます。合図は、座ったままでブザーとジェスチャーで行います（声は出しません）。また、ポゼッションアローを操作します。

（1）審判への合図

認められる時機 認められる時機の終わり	認められるチーム	
	タイムアウト	交代 ※第4Qと各OTのみ
審判が笛を鳴らしたあと (ファウルのはきは審判のレポートのあと) スローインまたはフリースローをするプレーヤーに ボールが与えられるまで	両チーム	両チーム
ゴールのあと スローインをするプレーヤーがエンドラインの アウトオブバウンズでボールを持つまで	得点されたチーム	どちらも認められない
フリースローに続くスローインの前 ・最後のフリースローが成功したあとのスローイン ・フリースローの成否にかかわらずスローインとなる 場合(テクニカルファウルやアンスポなど) スローインをするプレーヤーがアウトオブバウンズで ボールを持つまたは与えられるまで	両チーム	両チーム

※「ゴール」…… ゲームクロックが動いていて、ボールがライブの状態でのショットのゴールを指す。

タイムアウトの合図	交代の合図
 <p>ブザーを鳴らしたあと、両手でTの字を示し、続けて 請求したチームのベンチを指す。</p>	 <p>ブザーを鳴らしたあと、両手を顔の前で交差し、続けて申し出のあったチ ームのベンチを指す。(両方のベンチを指すこともある)</p>

※ タイムアウトは、各 Q と OT に 1 回ずつ認められます。

（2）ポゼッションアロー

- ゲームのはじめ
 - ジャンプボールのあと、どちらかのチームがコート内でボールをコントロールしたら、相手チームの攻撃する方向を矢印で示します。
 - ジャンプボールのあと、どちらのチームもボールをコントロールできないうちにアウトオブバウンズになった場合やバイオレーションまたはパーソナルファウルが宣せられた場合は、スローインのボールが与えられたときに、相手チームが攻撃する方法を矢印で示します。(このスローインのあとは、ボールがコート上のプレーヤーに触れても矢印の向きは変えません)

- ゲーム中
 - ジャンプボールシチュエーションのスローインのボールがコート上のプレーヤー（味方でも敵でも）に触れたときに矢印の向きを変えます。（表示器具に手を添えて向きを変える準備をしますが、高く持ち上げて見せる必要はありません。）



（3）前半が終了したときの確認

- 第2 Qが終了したら、スコアラーのスコアシートと、両チームがベンチでつけていたスコアシートを照らし合わせて、次のことを確認します。
 - ① 前半の各プレーヤー、ヘッドコーチのファウルの個数
 - ② 前半の得点合計
 - ③ 後半の最初にスローインするチーム（第2 Q終了後に審判の確認のもと、速やかに矢印の向きを変えておく）

4. アシスタントスコアラーの仕事

（1）ファウル個数の表示

- 個人ファウルの個数は3段階で行います。
 - (ア) 両ベンチに向けて
 - (イ) 観衆、審判、プレーヤーに向けて
 - (ウ) 再び両ベンチに向けて
- 個人5個目のファウルのときは、ブザーを鳴らして審判に伝えたあと、(イ)(ウ)の2段階で表示します。
 - ※ 電子式の場合は5秒程度表示します。
 - ※ ファウル個数を表示するときは（5個目のファウルのときも含めて）声は出しません。
- チームファウルの個数は、4個目まで表示します。
- 表示は、「チームファウルの個数」⇒「個人ファウルの個数」の順に行います。
- 4個目のチームファウルの後、審判がスローインまたはフリースローのボールをプレーヤーに渡したら、チームファウルペナルティーの赤い標識を表示します。（このとき、声を出したり、ブザーを鳴らしたりはしません。）



（2）得点の入力とスコアラーのサポート

- スコアボードの得点入力は、アシスタントスコアラーが行います。ただし、得点入力とゲームクロックの操作ボタンが一体となっている機材では、タイマーが得点入力を行います。その場合、タイマーは得点入力よりもゲームクロックの操作を優先し、スタート/ストップが遅れることがないようにします。
- 得点を入力したら（タイマーが入力する場合も含む）、スコアボードの得点を見て、「19 対 23！」のように声に出してスコアラーに伝えます。コールの順番は常にチームA ⇒ チームBの順です。（スコアラーは、ランニングスコアと合っていることを確認したら「OK！」と返します。）
- ゴールやファウルのプレーヤーの番号を常に見ておき、スコアラーから「今のは何番？」と聞かれたらすぐに答えられる準備をしておきます。

5. タイマーの仕事

(1) 競技時間

- 競技時間は、次の通りです。オーバータイムは、実施しない場合もあります。また、ゲーム開始前のインターバルは、これより短い場合もあります。

INT (インターバル)	前半			ハーフ タイム	後半			INT	オーバータイム		
	1Q	INT	2Q		3Q	INT	4Q		OT	INT	...
20分	6分	1分	6分	5分	6分	1分	6分	2分	3分	2分	...

- 次の時間にブザーを鳴らし、各クォーターの始まりが近付いていることを知らせます。
 - ゲーム前のインターバルとハーフタイム.....残り3分、残り1分、終わったとき
 - 1分間のインターバル.....終わったとき
 - 2分間のインターバル.....残り1分、終わったとき

(2) ゲームクロックのスタート/ストップ

- 次の表に従って、ゲームクロックを操作します。合図（ジェスチャー）も、忘れずに行いましょう。

ゲームクロックの(スタート/ストップ)のタイミング		合図
スタート	<ul style="list-style-type: none"> • ジャンプボールのボールがジャンパーにタップされたとき • 最後のフリースローのボールがリングに触れたあと、コート上のプレーヤーがボールに触れたとき • スローインされたボールにコート上のプレーヤーがボールに触れたとき ゴール後のエンドラインからのスローインは除きます。 	<p>①手のひらを握り ②手をあげる</p>
ストップ	<ul style="list-style-type: none"> • ゲームクロックが動いている間に審判が笛を鳴らしたとき • タイムアウトを請求していたチームが、ゴールで得点されたとき • ショットクロックのブザーが鳴り、審判が笛を鳴らしたとき ショットクロックのブザーが鳴っても、審判が笛を鳴らさなければプレーは続行されるので、ゲームクロックは止めません。 	<p>手を開き頭上あげる</p>

※ フリースロー(2スロー)のとき、1投目の間は手を下ろしておき、2投目の前に手を上げます。

(3) タイムアウトの計測

- 審判がタイムアウトのシグナルを示したら、ストップウォッチで45秒をはかり始めます。
- 35秒経ったときと、45秒経ったときに、ブザーを鳴らします。
- ブザーのスイッチがタイマーの押せる位置にない場合は、スコアラーがブザーを鳴らします。



6. ショットクロックオペレーターの仕事

(1) ボールのコントロール

- ショットクロックは、プレーヤーが「ボールをコントロールしたとき（ボールを持つかドリブルを始めたとき）」に計り始めます。ボールに触ったり、はじいたりしただけではボールのコントロールは始まりません。「ボールをコントロールすること」と、「ボールに触れること」をしっかりと区別しましょう。特に、ジャンプボールのあとや、ボールがリングに触れて弾んだあと、また、ディフェンスがボールを奪おうとしているときなどは、いつボールコントロールが始まるかをよく見極めてください。
- ただし、スローインでゲームを再開するときは、スローインされたボールにプレーヤー（味方でも敵でも）が触れた瞬間に計り始めます。

(2) ショットクロックの操作

- ゲーム中の場面ごとのショットクロックの操作を説明します。説明では、次の記号を使います。

リセット[24] …… 24 秒にリセット。ショットクロックは (非表示)

リセット[14] …… 14 秒にリセット。ショットクロックには を表示

継続 …… ショットクロックの残りの時間を継続してはかる (残り秒数を表示。例：)

A 各 Q、OT の初め

- ショットクロックは を表示
- 第 1Q は、ジャンプボールのあとにどちらかのプレーヤーがコート上でボールをコントロールしたときに 。
- 第 2～4Q と各 OT は、プレーヤー（味方でも敵でも）がスローインされたボールに触れたときに 。

B 審判の笛の後、スローインで再開するとき

- 相手チームに新たにボールが与えられ、 となるケース
 - 攻撃側のパーソナルファウルやバイオレーションのあとに、防御側チームに与えられるスローイン
 - リングに当たったボールが直接アウトオブバウンズになった、または攻撃側プレーヤーが触れて（コントロールなし）アウトオブバウンズになったあと、防御側に与えられるスローイン
 - ジャンプボールシチュエーションで、防御側チームに与えられるスローイン
- 同じチームに引き続きボールが与えられ、 となるケース
 - 防御側のファウルやバイオレーション（ボールを足で止める、スローインのときに境界線を越えて手を出すなど）のあとに与えられるスローイン
 - 負傷した防御側プレーヤーの保護のために審判がゲームを止めたあとに与えられるスローイン
 - どちらのチームにも関係のない理由で審判がゲームを止めたあとに与えられるスローイン
(ただし、相手チームが著しく不利になると審判が判断したときは、継続することもある)

- 同じチームに引き続きボールが与えられ、**リセット[14]**となるケース
 - リングに当たったボールに防御側プレーヤーが触れて（コントロールなし）アウトになったあとに、攻撃側に与えられるスローイン
 - ボールがリングに挟まるジャンプボールシチュエーションで攻撃側に与えられるスローイン
- 同じチームに引き続きボールが与えられ、**継続**となるケース
 - 防御側プレーヤーに最後に触れてアウトオブバウンズとなったあとに与えられるスローイン
 - ジャンプボールシチュエーションで攻撃側に与えられるスローイン（ボールがリングに挟まるジャンプボールシチュエーションを除く）
 - 負傷した攻撃側プレーヤーの保護のために審判がゲームを止めたあとに与えられるスローイン

★ **ここがポイント！（審判の笛 ⇒ ストップ ⇒ シグナル確認）**

- 審判が笛を鳴らしたときは、ショットクロックをストップします。（いきなりリセットしません）
- ストップした後、審判のシグナル（ジェスチャー）を確認して、継続かリセットかを判断して操作します。

C パーソナルファウルのフリースローを行うとき（あとにスローインまたはフリースローが続くときを除く）

- ショットクロックは （非表示）にしておく。
- フリースロー成功 **リセット[24]** → スローイン → **スタート**。
- フリースロー不成功（ボールがリングに触れたとき）
 - 攻撃側チームがボールコントロール **リセット[14]**・**スタート**。
 - 防御側チームがボールコントロール **リセット[24]**・**スタート**。

D スローインファウルのフリースローを行うとき
 ※ 1 個のフリースローのあと、ファウルが起こった地点に最も近い位置から攻撃側のスローインで再開。

- **リセット[24]**。 （非表示）の状態で行う。

E テクニカルファウルのフリースローを行うとき
 ※ 1 個のフリースローのあと、ファウルが起こった地点に最も近い位置から攻撃側のスローインで再開。
 （どちらのチームにもボールコントロールがないときは、ジャンプボールシチュエーション）

- 攻撃側チームのファウルの場合は **継続**。残り秒数を表示した状態でフリースローを行う。
- 防御側チームのファウルの場合は **リセット[24]**。 （非表示）の状態で行う。

F アンスポーツマンライク、ディスクォリファイングファウル、マンツーマンペナルティーのフリースローを行うとき
 ※ 1 個以上のフリースローのあとに、センターラインの延長からのスローインで再開。

- **リセット[24]**。 （非表示）の状態で行う。

G ゴールのショットが放たれたとき（パスのボールが偶然リングに当たった場合も含む）
 ※「ゴール」とは、ゲームクロックが動いていて、ボールがライブの状態でのショットのゴールを指す。

- ショット成功 **リセット[24]** → **スローイン** → **スタート**。
- ショット不成功 ボールがリングに当たった瞬間に （非表示）にして、その後
 - 攻撃側チームがボールコントロール **リセット[14]**・**スタート**。
 - 防御側チームがボールコントロール **リセット[24]**・**スタート**。
 （どちらかのチームのボールコントロールが確立する前にアウトオブバウンズになったときは、Bを参照）
- ショット不成功（ボールがリングに当たらなかったとき）
 - 攻撃側チームがボールコントロール **ショットクロックは止めない**。
 - 防御側チームがボールコントロール **リセット[24]**・**スタート**。

H ショットのボールが空中にあるときにショットクロックのブザーが鳴ったとき

- ショットが成功したときとボールがリングに当たったときは、ブザーは無視し、Fの操作を行う。
- ボールがリングに当たらなかったときはバイオレーションとなり、**リセット[24]** → **スローイン** → **スタート**。
- ただし、相手チームが速やかかつ明らかにボールコントロールできると審判が判断したら、ブザーは無視され、プレーは続行される。この場合は、相手チームがコントロールをしたら **リセット[24]**・**スタート**。

I ショットクロックが動いている間に、防御側プレーヤーがボールを奪って新たなボールコントロールが始まったとき（スローインのボールを防御側プレーヤーが直接キャッチしたときを含む。）

- **リセット[24]**・**スタート**。

J 各 Q、OT の終了間際の表示方法

- ゲームクロック残り 24 秒未満～14 秒
 - リセットの場面が生じたら、**リセット[24]**し、（表示なし）の状態（※）を続ける。
 - その後、ショットがあり、攻撃側がリバウンドのボールをコントロールしたら、**リセット[14]**・**スタート**。
- ゲームクロック残り 14 秒未満
 - リセットの場面が生じたら、競技時間終了まで（表示なし）の状態（※）を続ける。
 ※ リセットボタンを押し続けて非表示にする。それでも表示が消えない場合は **24** を表示しておく。

【補足】

- 〔審判の指示〕審判から「リセット」の合図があれば、ただちにリセットを行います。
- 〔誤った合図〕誤ってブザーが鳴った場合は、直ちにリセットして新たに計り始めます。



★ ここがポイント！（ショットクロックのリセット）

- 防御側プレーヤーが、攻撃側プレーヤーが持っているボールに触れたり、パスのボールを弾いたりしただけでは、新たなボールコントロールは始まりません。一方、片手でも両手でも、ボールを支え持ったら、その瞬間に新たなボールコントロールが始まります。
- **例 1** A1 がフロントコートで持っているボールを B1 がはたき出してバックコートに転がったボールを A1 と B1 が追いかけていき、A1 が再びボールをつかんだ場合、チーム A のボールコントロールはその間とぎれることなく続いています。
- **例 2** A1 から A2 へのパスに B1 が触れ、コートの外に出そうになったボールを B2 が追いかけてジャンプしてボールを片手でコート内に投げ入れてそれを A3 がつかんだ場合、B2 が空中でボールを投げ入れるために支え持った時点でチーム B のコントロールが始まります。さらに B2 が投げ入れたボールを A3 がつかんだ時点でチーム A の新たなコントロールが始まります。ショットクロックは、B2 がボールを支え持ったときと A3 がボールをつかんだときに 24 秒にリセットされます。

7. スコアラー系のコミュニケーション

- U15 以上のバスケットボールのゲームでは、TO 同士が互いに声をかけ合って、TO の仕事が素早く正確にできるよう心がけています。U12 の皆さんも、スコアシートの記入の仕方や機械の操作に慣れてきたら、少しずつ、声を使ってのコミュニケーションにトライしましょう。
- 「声出し」は、TO 同士の情報交換のために行います。会場内の人たち（審判、選手、コーチ、観客など）に伝えるためではありません。交代やタイムアウトは、ブザーとジェスチャーだけで伝えます。また、ファウルの個数を表示するときも、声は出しません。
- スコアラー系の 2 人（スコアラーとアシスタントスコアラー）は、次のページのように声をかけ合いながら得点やファウルなどを正確に記録し、表示していきます。

(1) 得点

担当	アクション	具体例
スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> • ショットされたら、チームの色、番号をコールし、成功なら「カウント」失敗なら「アウト」とコールする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 赤 4 番。カウント！ • 白 8 番。アウト！
スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> • フリースローシューターにボールが渡されたとき、チームの色、番号、本数等をコールし、成功なら「カウント」、失敗なら「アウト」とコールする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 白 4 番 1 投目。 • 白 4 番 2 ショット。 • カウント！ / アウト！
スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> • ショット成功したら、もう一度チームの色、番号、合計得点をコールして、スコアシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 赤 4 番。23 点目。
A スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> • スコアボードに入力して、チームの色・番号、両チームの得点をコールする。（常に A チーム→B チームの順に） 	<ul style="list-style-type: none"> • 赤 4 番。19 対 23。
スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> • スコアシートとスコアボードの得点が一貫していることを確認したら OK を返す。 	<ul style="list-style-type: none"> • OK！

※ Aスコアラー … アシスタントスコアラー

※ タイマーが得点入力する場合も、アシスタントスコアラーがスコアボードの表示を見て得点をコールします。

(2) ファウル

担当	アクション	具体例
スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> • 審判のレポートに合わせて「カウントかノーカウントか」「色と番号」「スローインかフリースローか」などをコール（同時復唱）し、サムアップ（了解の合図）を審判に返す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 白 8 番。スローイン。 • カウント。白 8 番。1 スロー。
スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> • スコアシートに記入し、もう一度チームの色、番号、（ファウルの種類）、個人のファウル数、チームのファウル数をコールする。（ファウルの種類は、パーソナルファウルのときは省略する。） 	<ul style="list-style-type: none"> • 白 8 番。個人 3 個目、チーム 2 個目。 • 白 8 番。テクニカルファウル。個人 3 個目。チーム 2 個目。
スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> • 個人 5 個目のファウルのときは、ブザーを鳴らして審判に知らせる。 	<p>(ブザー)</p>
A スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> • 審判のレポート時にチームファウルの個数を表示する。 • チームの色、番号、ファウルの個数を復唱して、個人のファウル個数を表示する。 <p>※ 左側のチームファウルは SC オペレーターが表示することもある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 白 8 番。個人 3 個目、チーム 2 個目、OK です。
スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> • 4 個目のチームファウルを表示した後は、<u>スローインをす</u> <u>るプレーヤーまたはフリースローシューターにボールが与</u> <u>えられたときに赤い標識を表示し、コールする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • 赤色、表示しました。
スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> • 赤い標識を確認したら OK を返す。 	<p>赤色表示、OK！</p>

(3) タイムアウト

担当	アクション	具体例
スコアラー	【準備】 <ul style="list-style-type: none"> タイムアウトの請求（キャンセル）を確認したら、コールする。 	<ul style="list-style-type: none"> 白、タイムアウト。 タイムアウト、キャンセル。
他のクルー スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> スコアラーが請求（キャンセル）に気づいていなければ知らせる。 知らせてもらったら、確認のOKを返す。 	<ul style="list-style-type: none"> 白、タイムアウトあります。 タイムアウト、キャンセルです。 白のタイムアウト、OK！ タイムアウトキャンセル、OK！
スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> 相手チームのコントロールが始まったら、ショット成功後にタイムアウトがあることをコールする。 	<ul style="list-style-type: none"> 赤のショットが入ったら、白タイムアウト。
タイマー	<ul style="list-style-type: none"> ゲームクロックを止める準備ができていることを返す。 	<ul style="list-style-type: none"> OK！
スコアラー	【タイムアウト】 <ul style="list-style-type: none"> 審判が笛を鳴らしたら、ブザーを鳴らし、合図をする。 (ファウルときは、審判のレポートが終わるのを待つ。) 	<p>(座ったままで、ブザーとジェスチャーだけで合図する。声は出さない。)</p>
タイマー スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> ショット後のタイムアウトは、タイマーがクロックを止めるのと同時にブザーを鳴らし、合図をする。 	
スコアラー	<ul style="list-style-type: none"> チームの色をコールし、スコアシートに記録する。 	<p>白のタイムアウトです。</p>
タイマー	<ul style="list-style-type: none"> 審判のタイムアウトの合図を確認して計測スタート 25秒経過したらカウントダウンをする。 35秒経過のブザーを鳴らす。 40秒経過したらカウントダウンをする。 45秒経過のブザーを鳴らす。 コート上に5人ずつのプレーヤーが戻っていることを確認して、片手を開いて上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> タイムアウトスタート 10秒前。9,8, …, 2, 1。 (ブザー) 5秒前。4, 3, 2, 1。 (ブザー) 5人と5人、OK！
※タイマーが手元でブザーを鳴らせないときは、スコアラーが鳴らす。		

(4) 交代

担当	アクション	具体例
スコアラー	【準備】 ・ 交代の申し出（キャンセル）を確認したら、コールする。	・ 白、交代。 ・ 白の交代、キャンセル。
他のクルー スコアラー	・ スコアラーが申し出（キャンセル）に気づいていなければ知らせる。 ・ 知らせてもらったら、確認の OK を返す。	・ 白、交代があります。 ・ 白の交代、キャンセルです。 ・ 白の交代、OK！ ・ 白の交代キャンセル、OK！
スコアラー	【交代】 ・ 審判が笛を鳴らしたら、ブザーを鳴らし、合図をする。 （ファウルときは、審判のレポートが終わるのを待つ。）	（座ったままで、ブザーとジェスチャーだけで合図する。声は出さない。）
スコアラー	・ 「出場時限」の欄に「\」を記入する。	・ 白 33 番イン。

(5) ポゼッションアロー

担当	アクション	具体例
SC オペレーター	【ゲーム開始時】 ・ 最初のボールコントロールを確認してショットクロックをスタートし、コールする。	・ スタート。白コントロールです。
スコアラー	・ ボールコントロールを確認し、アローの向きをコールする。	・ 白コントロール OK。アローを赤に向けます。
A スコアラー	・ アローの向きを確認し、OK を返す。	・ アロー赤、OK です。
スコアラー	【ジャンプボールシチュエーション】 ・ ジャンプボールシチュエーションが宣せられたら、アローに手を置く。 ・ スローインされたボールにプレイヤーが触れたら、アローの向きを変え、コールする。	（反転の準備でアローに手を置くが、持ち上げない。） ・ アロー、白に変えました。
A スコアラー	・ アローの向きを確認して、OK を返す。	・ アロー、白、OK です。
スコアラー	【ハーフタイム】 ・ ハーフタイムに入ったら、速やかに審判（TO 主任）が同席しているところでアローの向きを変え、後半の最初にスローインするチームを伝える。	・ アロー、白に変えます。

※ SC オペレーター … ショットクロックオペレーター

8. タイマー系のコミュニケーション

- タイマー系の 2 人（タイマーとショットクロックオペレーター）は、声をかけ合いながら、2 つのクロックを操作して時間を正確に測っていきます。
- クロックの表示盤ばかり見てはいけません。プレーをしっかり見ながら操作することが大切です。

(1) ゲームクロック（タイマーのアクション）

場面	アクション	具体例
スタート/ストップ	<ul style="list-style-type: none"> • 操作の瞬間にコールする。 • 実際にスタート/ストップしているか目視して確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> • スタート！/ストップ！
ゲームクロックが止まった後のゲーム再開時	<ul style="list-style-type: none"> • 残り時間をコールする。 • <u>SC オペレーター</u>は、確認して OK を返す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 312。（3 分 12 秒の意味） • OK！
各 Q、OT の終わり近く	<ul style="list-style-type: none"> • ゲームクロックの残り 1 分をコールする。（カウントダウンや、得点の記録の間を避ける。少しずれてもよい。 • ゲームクロックの残り 30 秒、24 秒、14 秒を<u>正確</u>にコールする。） • <u>SC オペレーター</u>は、確認して OK を返す。 	<ul style="list-style-type: none"> • もうすぐ、残り 1 分です。 • 残り 1 分切りました。 • 30 秒！/24 秒！/14 秒！ • OK！
各 Q、OT の終わり	<ul style="list-style-type: none"> • <u>SC オペレーター</u>が残り 10 秒からカウントダウンする。 • ショットクロックのカウントダウンと重なる場合は、タイマーが「各自でカウントダウンを行う」ことを宣言し、<u>タイマー自身</u>がカウントダウンを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 10, 9, …, 3, 2, 1。 • カウントダウンはそれぞれで行います。5, 4, 3, 2, 1。

★ ここがポイント！（タイマーとショットクロックオペレーターのシンクロ）

- ゲームクロックがスタート/ストップするときは、次の 2 つの場面を除いて、ショットクロックも同時にスタート/ストップします。
 - ジャンプボール後のスタート
 - 最後のフリースローのショットが不成功でリングに当たった後のスタート
- タイマーとショットクロックオペレーターは、2 人の「スタート」「ストップ」のコールが同時になるように、操作の精度を高めましょう。

(2) ショットクロック (SC オペレーターのアクション)

場面	アクション	具体例
ゲーム開始時	<ul style="list-style-type: none"> • ショットクロックをスタートさせ、最初のコントロールをコールする。 • <u>スコアラー</u>は、確認して、アローを操作する。 	<p>スタート。白コントロールしました。 白コントロール OK。アロー赤。</p>
スタート/ストップ	<ul style="list-style-type: none"> • 操作の瞬間にコールする。 • 実際にスタート/ストップしているか目視して確認する。 • 審判の笛でストップしたときは、審判のシグナルを確認して、リセットまたは残り時間をコールする。 • <u>タイマー</u>はショットクロックの表示を確認して OK を返す。 	<ul style="list-style-type: none"> • スタート！ / ストップ！ • 24 秒リセット！ / 8 秒継続！ • OK！
ゴールのショットが放たれたとき	<ul style="list-style-type: none"> • ボールがリングに触れた瞬間またはゴールした瞬間にコールし、リセットボタンを押す。 • タイマーは、「当たった / 入った」のコールに対して OK を返す。 • SC オペレーターがリングに触れたかどうか確認できず、タイマーが確認できた場合は、「当たった」とコールし、SC オペレーターに伝える。 • 新たなボールコントロールが始まったら、リセットの秒数をコールしてスタート。 • <u>タイマー</u>はショットクロックの表示を確認して OK を返す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 当たった！ / 入った！ • OK！ • 当たった！ • 24！ / 14！ • OK！
ショットクロックが動いている間に新たなコントロールが始まったとき	<ul style="list-style-type: none"> • 「24！」とコールし、リセット・スタートする。 • <u>タイマー</u>はショットクロックの表示を確認して OK を返す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 24！ • OK！
カウントダウン	<ul style="list-style-type: none"> • <u>タイマー</u>が残り 14 秒をコールする。 • SC オペレーターは、OK を返す。 • <u>タイマー</u>が残り 5 秒からカウントダウンする。 • ゲームクロックのカウントダウンと重なる場合は、<u>タイマー</u>が「各自でカウントダウンを行う」ことを宣言したあと、<u>SC オペレーター自身</u>がカウントダウンを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 14 秒！ • OK！ • 5, 4, 3, 2, 1。 • カウントダウンはそれぞれで行います。5, 4, 3, 2, 1。

U12 TO サポーター マニュアル

2024 年 4 月

(公財) 日本バスケットボール協会 TO 委員会

1. 「TO サポーター」とは

- 「TO サポーター」とは、U12 のゲームで、TO を行う子どもたちをサポートする大人のことです。
- TO は、審判と一緒に一つのチームとなって、ゲームを公正かつ円滑にすすめる、とても大切な役割を担っています。子どもたちが誇りと責任感をもって TO の仕事に取り組めるよう、サポートをお願いします。
- U12 のルールは、一般のルールと異なるところが多くあります。【付録】を参照してください。

2. ゲーム中のサポート

- 「U12 TO マニュアル ハンドブック」(JBA TO 委員会) の内容に沿ってサポートしてください。
- ゲーム中、スコアラーズテーブルの後ろから子供たちを見守り、必要に応じて声をかけてください。TO のやり方を教えるだけでなく、うまくできたときには「グッジョブ!」、間違えたときには「大丈夫だよ。落ちついてやろう!」など、はげましたり、不安を取り除いたりする声かけも大切です。
- ミスやトラブルなど、困ったことが起こったときは、審判を呼んで状況を説明し、指示を仰いでください。ただし、審判を呼ぶのは、ゲームが止まっているとき(ゲームクロックが止まって、ボールがデッドのとき)に限ります。プレーしている最中にブザーを鳴らして審判を呼んではいけません。

3. サポートのポイント

- 以下のポイントを押さえながら、サポートしてください。ただし、経験の少ない子どもに「あれもこれも」と伝えすぎても、子どもたちを混乱させるだけです。子どもたちの様子を見ながら、できることを少しずつ増やしてあげてください。
- スコアシートの記入や機械の操作などが一通りできるようになったら、TO 同士のコミュニケーション(声の掛け合いによる連携)にも、少しずつ取り組ませてください。最初は、TO サポーターも一緒に声出しをしてあげてください。なお、「声出し」は、TO 間のコミュニケーションが目的です。審判、選手・コーチ、観客に伝えるためのものではありません。

(1) スコアラー

- スコアシートに得点やファウルなどを正しく記入しているか。
- 審判がファウルのレポートをするとき、アイコンタクトして、サムアップ(OKサイン)ができていないか。

- タイムアウトや交代の合図を正しく行っているか。

審判の笛のあと（ファウルときは審判のレポートのあと）速やかにブザーとジェスチャーだけで合図する。
合図するときに、立ち上がったたり声を出したりしない。

- ジャンプボールシチュエーションのとき、アローの反転を正しく行っているか。

ジャンプボールシチュエーションになったら、反転準備のためにアローに手を置く。（高く掲げない。）スローインされたボールがコート内のプレーヤーに正当に触れたら、アローを反転する。

【注意】

- T Oサポーターは、スコアシートのランニングスコアとスコアボードの表示が一致しているか、ファウルの記録と表示が一致しているか、ときどき確認してください。
- ベンチからのタイムアウトや交代の請求に注意し、スコアラーが気付いてなければ、すぐに知らせてあげてください。
- 2 Q 終了後に、スコアラーが両チームのマネージャーと、前半のファウル回数、得点、後半の最初にスローインするチームを確認するときは、立ち会ってください。

(2) アシスタントスコアラー

- 個人ファウルとチームファウルの個数を、正しく表示しているか。

チームファウルの個数 ⇒ 個人ファウルの個数の順に示す。
個人ファウルは、①ベンチに向けて②正面に向けて③再びベンチに向けて、の3段階で行う。
表示するときに、立ち上がったたり声を出したりはしない。また、表示ふだは上下に振ったり回したりしない。

- チームファウルペナルティーの赤色の標識を、正しく表示しているか。

4 個目のチームファウルのあと、スローインするプレーヤーまたはフリースローするプレーヤーにボールが与えられたときに赤色の標識を表示する。このとき数字（チームファウルの個数）は表示しない。ただし、数字を消せない機材の場合は、表示しても差し支えない。
表示するときに、声を出したりブザーを鳴らしたりはしない。ただし、5 個目のファウルのあと、審判がチームファウルペナルティーに気付かずにスローインさせようとしているときには、ブザーを鳴らして伝える。

- 得点が入ったときにスコアボードの得点をコールしているか。

スコアボードに表示される得点を「23 対 45」のようにコールする。（スコアラーはそのコールを聞いてランニングスコアと表示された得点と一致していることを確認する。）
コールは、スコアシートのランニングスコアの欄に合わせて、常に「チーム A ⇒ チーム B」の順に行う。
タイマーがスコアボードの操作を行う場合も、このコールはアシスタントスコアラーが行う。

(3) タイマー

- スタートのとき、「スタート！」とコールして、「手を握る」⇒「手を下ろす」の2段階の動作をしているか。
- ストップのとき、「ストップ！」とコールして、その瞬間に手を上げているか。

- 2 個のフリースローのとき、最後の一投の前に手を上げているか。
- タイムアウト（45 秒）を計測しているか。
- タイマーがスコアボードの操作をする場合、得点入力よりスタート／ストップの操作を優先して行っているか。

【注意】

- フリースロー以外でも、交代があるときなど、少し間があるときは、一度上げた手を下ろしても構いません。ただし、次にゲームが再開するときは、手を上げておきます。

(4) ショットクロックオペレーター

- ボールのコントロールの始まりを見極めてスタートしているか。
- スタート／ストップ時の声出しと目視による確認を行っているか。
- 審判が笛を鳴らしたときは一度ストップし、シグナルを確認して継続／リセットの操作をしているか。
- フリースローのときと、24 秒リセットのスローインのとき、非表示にしているか。
- ボールがリングに触れた瞬間に非表示にしているか。
- 各 Q、各 OT の開始時に 24 を表示しているか。
- 各 Q、各 OT の終わりに、正しく非表示にしているか。
- 左側のチームのチームファウルの表示を行う場合、正しいタイミングで行っているか。

•

【注意】

- 審判の笛でストップしたあとは、残りの時間を継続する場合と、24 秒または 14 秒にリセットする場合がありますが、継続すべき場面で誤ってリセットしてしまうと、ゲームを中断してショットクロックの修正をしなければなりません。このような事態を引き起こさないために、ショットクロックオペレーターは「審判の笛が鳴ったときは、必ず一度ストップし、審判のシグナルを確認して継続かリセットかを判断する」ことを習慣化しておくことが大切です。よい習慣が U12 の段階から身につくよう、サポートをお願いします。
- ボールのコントロールの始まり・終わりの見極めは、大人にとっても難しい技術です。ショットクロックオペレーターが誤ってリセットしてしまい、審判から修正の指示があったときには、残り何秒だったかの情報が必要です。TO サポーターは、ショットクロックの残りの秒数に注意を払いながらゲームを見守るようにしてください。
- ゲームクロックがスタート／ストップするときは、「ジャンプボール後のスタート」「最後のフリースローが不成功でボールがリングに当たったあとのスタート」を除き、ショットクロックも同時にスタート／ストップします。タイマーとショットクロックオペレーターが同時に「スタート！」「ストップ！」とコールしてそれぞれのクロックを操作することを目指させてください。

【付録】 一般と U12 の相違点

担当	項目	一般	U12
スコアラー	スコアシート	・4枚1組複写式	・1枚もの。様式は一般用と異なる。
	メンバーリスト	・キャプテンは(CAP)と記入。	キャプテンの規定はない。
	出場の記録	・スターターの5人は、コーチがスコアシートの Player-in の枠に×を記入してサインする。その後、スコアラ－が×に○をつける。 ・途中出場は、Player-in の枠に×を記入する。	・クォーターごとに出場を記録する欄がある。各Qのはじめに、スコアラ－が出場するプレーヤーの番号を見て、/を記入する。コーチのサインは不要。 ・途中出場は、\を記入する。
	コーチに記録されるファウル	・U15ではC、Bの他にM(マンツーマンペナルティ)がある。 ・Mが2回記録されると、ヘッドコーチは失格退場。	・C、Bの他にM(マンツーマンペナルティ)がある。 ・Mが3回記録されると、ヘッドコーチは失格退場。
	ランニングスコア	・1点、2点、3点がある。 ・自殺点は相手チームキャプテンの得点として記録。	・3点はない。(3点を採用する大会もある) ・自殺点は番号の代わりに▲を記入して記録。
	交代	・交代は自由に行える。 ・出場時間の制限はない。	・第3Qまでは、インターバルのみ交代できる。 ・「第3Qまでに10人以上出場」「第1Q～第3Q連続出場は不可」などの制限がある。
タイムマー	競技時間	・10分×4Q。OT5分。「引き分け」なし。(U15は、8分×4Q、OT3分)	・6分×4Q。「引き分け」もあり。延長を行う場合は1回3分。
	【最後の2分】 (第4Q、OTの最後の2分)	・スローインファウルが適用される。 ・ゴールの後ゲームクロックが止まる。 ・ゴールの後にプレーヤーは交代できる。 ・タイムアウト後のスローインの位置を選択できる。	・スローインファウルが適用される。 ・ゴールの後にゲームクロックを止める規定はない。プレーヤーの交代もできない。 ・タイムアウト後のスローインの位置を選択する規定はない。
	タイムアウト	・前半2回、後半3回。(【最後の2分】は2回まで。) OT各1回。 ・スコアシートには経過時間で記録する。 ・1回60秒。50秒と60秒経過時にブザー。	・各Q、各OTに1回ずつ。 ・スコアシートには各Qの枠に×を記入して記録する。 ・1回45秒。35秒と45秒経過時にブザー。
	インターバル	・1・2Q間、3・4Q間、各OT間は2分。 ・終了30秒前と終了時にブザー。	・1・2Q間、3・4Q間は1分、各OT間は2分。 ・1分のインターバルは終了時にブザー。(30秒前のブザーなし。) 2分のインターバルは、1分前と終了時にブザー。
	ハーフタイム	・10分。ただし主催者の考えにより変更可。 ・終了3分前、1分30秒前、終了時にブザー。	・5分。 ・終了3分前、1分前、終了時にブザー。

※ 「ゴール」とは、ゲームクロックが動いていて、ボールがライブの状態でのショットのゴールを指す。

担当	項目	一般	U12
ショットクロックオペレーター	14 秒リセット	①ショットのボールがリングに触れたあと、攻撃側がボールコントロールしたとき。 ②ボールがリングに挟まったジャンプボールシチュエーションで、攻撃側にボールが与えられるとき。 ③ショットクロック 13 秒以下で、相手チームのファウルやバイオレーションの後にフロントコートのアウトからスローインするとき。	①ショットのボールがリングに触れたあと、攻撃側がボールコントロールしたとき。 ②ボールがリングに挟まったジャンプボールシチュエーションで、攻撃側にボールが与えられるとき。 ★左の③のケースは 24 秒リセット。
	ショットクロック継続	①正当なディフェンスによるアウトオブバウンズ。 ②ジャンプボールシチュエーションで、攻撃側にボールが与えられるとき。 ③自己責任（自チームの負傷者の保護、自チームのテクニカルファウル）。 ④ショットクロック 14 秒以上で、相手チームのファウルやバイオレーション（キックボールなど）の後にフロントコートのアウトからスローインするとき。	①正当なディフェンスによるアウトオブバウンズ。 ②ジャンプボールシチュエーションで、攻撃側にボールが与えられるとき。 ③自己責任（自チームの負傷者の保護、自チームのテクニカルファウル）。 ★左の④のケースは 24 秒リセット。
	スローインライン	・アンスポ、DQのフリースローのあとのスローインはスローインラインから行う（SCは14秒リセット）。	・スローインラインはない。アンスポ、DQのあとはセンターラインの延長から（SCは24秒リセット）。